

報 告

令和 6 年 8 月 7 日

環 境 局

サーキュラーエコノミー推進課

第三セクターの経営情報について (西日本ペットボトルリサイクル株式会社)

1 会社概況（令和6年3月末現在）

- (1) 所在地 本社・工場：北九州市若松区響町一丁目62番
- (2) 設立年月日 平成9年4月1日
- (3) 代表者 代表取締役社長 千々木 亨
- (4) 資本金 1億円
- (5) 北九州市の出資金 500万円（出資の割合 5%）
- (6) 当期末従業員 52名（代表取締役・パートタイマー・アルバイトを除く）

2 令和5年度事業報告

同社は、市町村が分別収集する使用済みペットボトルを食品容器用再生PET樹脂製品及び非食品用途再生PET樹脂製品へリサイクルしており、北九州エコタウンの第一号立地企業として、平成10年7月に事業を開始した。

市が設置する環境産業推進会議に参画するほか、北九州エコタウン連絡会議において中心的役割を果たすなど、国内の資源循環や、本市の環境産業振興に寄与している。

(1) 原料の調達状況

容器包装リサイクル法に基づく指定法人である、(公財)日本容器包装リサイクル協会等から、前年度と同等の2万9,500トン調達した。

(2) 生産・売上の状況

前年度並みの2万2,000トンの生産量であり、高価格製品の販売比率アップ等により、売上高は前年度比+2.5%（8,884万円増）の35億9,906万円であった。

(3) 財務の状況

当期純利益 ▲1億1,834万円（R4：6,821万円）

原料の奪い合いによる仕入価格高騰が続いており、特に、主な仕入先である(公財)日本容器包装リサイクル協会から、調達価格が高止まりした時期に仕入れた大量の在庫をR5年度の原料に充てたことで、材料コスト負担が大幅に増加し、赤字決算となった。

国内のペットボトル回収率が90%を超える中、競合他社の設備増強等で、今後も原料の激しい争奪戦と市場競争は続く見通しであり、事業継続と黒字回復のための今後の方策として、原料の調達先を多様化していくことを目指していく。

具体的には、事業系原料、混合収集原料など低品位原料を活用した製造体制の構築や、株主会社と一体になった広域原料の調達網を構築するなど、(公財)日本容器包装リサイクル協会ルートに頼らない、幅広い原料調達体制を目指すことで、安定した原料の調達とコスト低減を図る。

なお、本年度は赤字決算となったが、社全体の資産から負債を差し引いた純資産は14億8,784万円ほどあり、現時点で債務超過に陥る状態ではなく、今後の事業継続には問題ない状況である。

3 決算報告書

損益計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高 ①	3,599,057
売上原価 ②	3,419,672
販売費及び一般管理費 ③	325,611
営業利益 ①－②－③＝④	▲146,226
営業外収益 ⑤	8,045
営業外費用 ⑥	1,218
経常利益 ④＋⑤－⑥＝⑦	▲139,399
特別損失 ⑧	0
税引前当期純利益 ⑦－⑧＝⑨	▲139,399
法人税・住民税及び事業税 ⑩	21,060
当期純利益 ⑨＋⑩＝⑪	▲118,339

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(千円)

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	1,098,591	流動負債	825,474
固定資産	2,144,427	固定負債	929,703
有形固定資産	2,098,344	負債合計	1,755,178
無形固定資産	5,750	資本金	100,000
投資等	40,331	利益剰余金	1,387,841
		純資産合計	1,487,841
合 計	3,243,019	合 計	3,243,019